

平成29年度 シニア活躍！地域支援担い手育成事業

実践モデルクラブの活動紹介

■ 生活支援の取組 4ページ

自治会と連携した助け合い活動！サポート隊・見守り隊の取組
(宇部市老人クラブ連合会 北迫新町やすらぎ会)

困っている方へのおたすけマン！おたすけクラブの取組
(萩市老人クラブ連合会 佐々並寿クラブ)

■ 通いの場づくりの取組 12ページ

学びで育む「共助」の心！「論語講座」の開催
(宇部市老人クラブ連合会 北迫新町やすらぎ会)

週に3回オープン！「新町サロン」の開催
(宇部市老人クラブ連合会 北迫新町やすらぎ会)

民踊で介護予防！「伝統・復活」健康民踊教室の開催
(宇部市老人クラブ連合会 西部第一寿会)

週2回実施！誰もが気軽に集えるサロンどんぐり山の開催
(宇部市老人クラブ連合会 小羽山第二親寿会)

■ 地域奉仕（ボランティア）活動 20ページ

住み良い街への環境改善！「環境美化活動」の実施
(宇部市老人クラブ連合会 小羽山第二親寿会)

湯野の街を美しく！老人クラブで取り組む環境美化活動
(周南市老人クラブ連合会 湯野寿会)

Case 1

生活支援

高齢者の暮らしの困りごとを支援する生活支援活動は、相手の求めに応じて、軽作業（電球交換、植木剪定など）、家事手伝い（掃除、ごみ出しなど）、外出支援や安否確認と多岐にわたります。

Case1では「生活支援」に取り組んでいるクラブを紹介します。

●Case1 生活支援

宇部市老人クラブ連合会 北迫新町やすらぎ会

会員数
75人

自治会と連携した助け合い活動①！ 『サポート隊』の取組

【活動の具体的内容】

北迫新町自治会内に居住する自治会員の共生・共助の地域社会を築くことをめざして、希望者への家事の手伝い（例：買い物援助、ごみ出し援助、高い場所の物の出し入れ、電球交換など）を行う目的で「サポート隊」を発足した。

現在は、特に要望が多かった「ごみ出し」のサポートを実施している。

利用希望者は、サポート券（10枚綴り1,000円）を購入し、券と引き換えにサポート隊の支援活動を受けることができる。（例：燃えるごみのごみ出し1回につきサポート券1枚、不燃ごみのごみ出し1回につきサポート券3枚など）

現在、10人のサポート隊登録メンバーがおり、北迫新町やすらぎ会の会員も担い手として活動に参画している。

今後は電球交換などの簡単な修理や買物援助等を実施することにより、活動の拡大に向けての仕組みを構築していきたいと考えている。



サポート活動（ごみ出し）の様子

①	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
②	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
③	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
④	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑤	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑥	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑦	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑧	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑨	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新
⑩	サポート券「ゴミ出し」	1枚「100円」	北迫新



サポートを希望する利用者は、このサポート券（10枚綴り1,000円）を購入します。利用料を介在させることで受け手にとっては気兼ねが減る、担い手にとっては、活動したことの実感がもてる、などのメリットがあります。

【活動をはじめた経緯】

- 山口県社会福祉協議会の小地域福祉活動強化事業のモデル指定を受けて、自治会内に「福祉の輪づくり委員会」を設置したことがきっかけ。北迫新町やすらぎ会は自治会の一組織として参画し、担い手として活動している。
- 平成28年度の1年間は準備期間としての活動で、自治会員へのアンケート調査、各種規定づくり、体制づくり等を宇部市社会福祉協議会、宇部市地区支援センターの支援を得て実施。平成29年度より活動開始した。

【活動の財源】

山口県社会福祉協議会助成金
自治会予算

【活動を行う上での工夫】

高齢住民との対話の機会が増え、意見や要望を良く聴取し、尊重して対応すること。

【活動を振り返っての成果】

- サポート利用希望者も徐々に増え現在は6人となって喜んでもらっている。
- 平成29年12月より買い物援助として、生協移動販売車が、週1回の巡回を開始され大変喜ばれている。
- 地域包括支援センター及び地区にある福祉施設の協力により、1ヶ月2回の買い物バスの運行も開始され、高齢者への支援が着実に進んでいる。

【今後の活動の展望】

活動ははじまったばかりであるが、滑り出しは順調である。自治会員へのアンケートの結果からボランティア活動への意欲のある住民が多いことが分かっており、更に要望の多い順にサポート活動の充実を図りたい。

自治会と連携した助け合い活動②！ 『見守り隊』の取組

【活動の具体的な内容】

「見守り隊」活動は、主に北迫新町やすらぎ会、民生委員、福祉委員が住民の協力を得て実施しており、各団体の連携によるきめ細やかな見守りを行うことで孤立を防いでいる。

見守りの対象者は、アンケート調査による希望者としており、以下の3つのグループに分けて見守り活動を行っている。

(1)民生委員（担い手3人）

民生委員担当住民の見守り希望者：8人対象

(2)北迫新町やすらぎ会（担い手2人）

やすらぎ会会員の見守り希望者：5人対象

(3)福祉委員2人

上記以外の住民で見守りを希望する者：3人対象

見守り回数は、原則月1回としている。

民生委員以外の見守り対象者に問題が発生したら、民生委員・自治会長に速やかに連絡することを徹底している。

守秘義務問題解決策として、見守り対象者は自身の意思で事前同意をし、書類にて確認することとしている。そのための各種規定の設定を行った。



見守り隊活動の様子

【活動をはじめた経緯】

- 山口県社会福祉協議会の小地域福祉活動強化事業のモデル指定を受けて、自治会内に「福祉の輪づくり委員会」を設置したことがきっかけ。
- 高齢者を抱える北迫やすらぎ会を中心に「明日は我が身」との思い、将来の高齢化に備える思いから全力を挙げ活動体制の構築を行った。

【活動の財源】

山口県社会福祉協議会助成金
自治会予算

【活動を行う上での工夫】

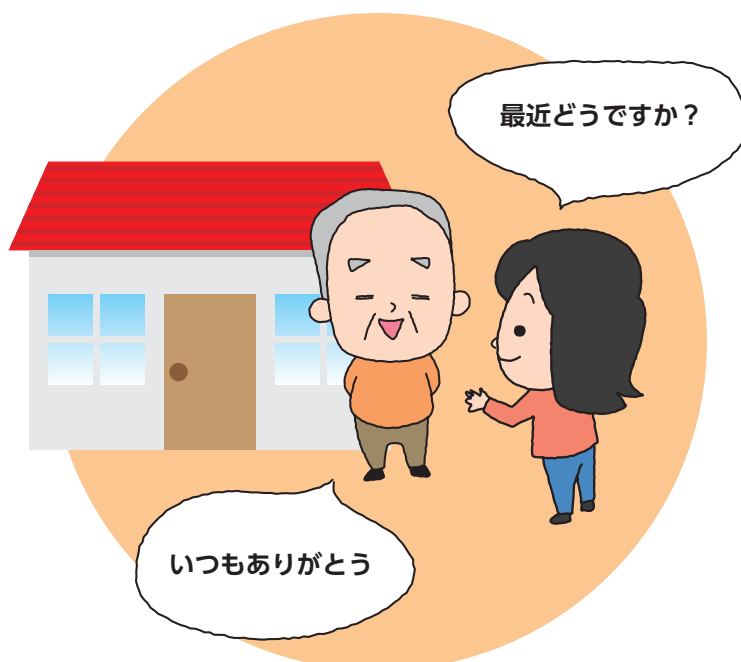
月1回行う情報交換会議を的確に行うと同時に、議事録をしっかりと残し、活用すること。

【活動を振り返っての成果】

月1回行う情報交換会議が非常に有効。ケガや危険箇所等を把握し、予防行為の周知を図る見守りが可能となる。

【今後の活動の展望】

- 現状のまま続けることで活動経験の中から、改善点を見出し将来の高齢化に備えること。
- これらの活動が必ずケガや事故防止などにつながると、隊員一同の思いである。



●Case1 生活支援

萩市老人クラブ連合会 佐々並寿クラブ

会員数
124人

新地域支援事業

困っている方へのおたすけマン！ 「おたすけクラブ」の取組

【おたすけクラブの活動】

A 実施体制

佐々並地区で生活する人が、毎日の生活の中で、ちょっとした困りごとや手助けが必要なときに、佐々並寿クラブ会員が「おてご（お手伝い）する人」となり、手助けに行く活動を実施している。

おたすけクラブの活動は、30分500円としており、家事（ごみの搬出、窓拭きなど）や外・力仕事（草刈り、食器棚の移動など）のおてごを行っている。

なお、手助けの対象者は、佐々並寿クラブ会員限定としておらず、佐々並地区全体を対象としている。

B メンバー

佐々並寿クラブ会員の有志（15人）を「おてごする人」として登録している。

また、会員以外でも、住民有志のボランティア（2人）を「おてごする人」として登録している。

C 実施方法

- ①手助けが必要な人がおたすけクラブ事務局（地区社会福祉協議会）へ相談する。
- ②佐々並寿クラブ会員が事前に現地に下見に行き、相談者と面接。場所・時間の確認。
- ③佐々並寿クラブ会員がおたすけクラブ事務局へ②の状況を報告。
- ④現地にて佐々並寿クラブ会員が作業を実施。
- ⑤作業後、実施内容をおたすけクラブ事務局へ報告し、おたすけクラブ事務局より利用料の徴収を行う。
- ⑥佐々並寿クラブ会員（作業した方）へ利用料を手渡す。



おたすけ活動の様子

D 頻度・実績

随時おたすけクラブ事務局にて受付を行っている。

平成29年度実績（1月時点）：21件（草刈り、窓拭き、網戸張替え、ごみ搬出など）

E 関係機関との連携

民生委員・児童委員の個別訪問の際、おたすけクラブの活動紹介をお願いしている。佐々並公民館へ住民の理解と周知を図るため、チラシの全戸配布をお願いしている。生活支援体制整備事業における協議体（佐々並ささえ愛隊）による会議での啓発を行っている。

萩市社会福祉協議会より、他所の先行事例や規約作成等についての情報を提供してもらっている。

【活動をはじめた経緯】

平成27年8月

萩市老人クラブ事業の一環として行われていた「旭大学」において、萩市健康増進課地域保健師による「お宝さがしプロジェクト」講義の中において、旭大学学生により、生活の中で困っている（今後困るであろう）ことについて、グループ討議が行われた。

そのときの討議の中で、高齢になると草刈りができなくなる・台風の後の片付けが大変だ・葉っぱで雨どいが詰まる等の困りごとが表出された。これに対し、旭大学学生であり、佐々並寿クラブ会員である数人から「地域の中で困っている人がおるんやったら、まだ少し力のある自分たちの力でよかったら貸したるで！」という声がでた。この小さな声からの出発となる。

平成27年10月

旭大学学生と佐々並寿クラブ会長、民生委員・児童委員協議会会長の理解を得て、協議の中で、有償サービスとして構築し、地域内での住民のささえあいを基にしながら、そこに多少の金額を発生させることで気兼ねなくお互いが利用できる仕組みを作ることにて合意。おたすけクラブのチラシを作成し、地域内に全戸配布する。

平成28年8月

おたすけクラブの話し合いを行う。請け負った仕事内容について振り返り、約束事の取り決めを行う。（活動時間は原則1人1時間の範囲で行う、現地の下見は必ず2人で行うなど）

平成29年4月

おたすけクラブについて、手助けする人を確保し、事業を広く広報・周知することを目的として、佐々並地区の最大の組織力をもつ佐々並寿クラブ（住民の6分の1が加入）が主導となる。

平成29年12月

おたすけクラブ規約作成

【活動の財源】

介護予防・日常生活支援総合事業による萩市住民主体生活支援サービス（訪問型B）事業補助金として、年間8万円で運営（行政との協議により、本人宅までのガソリン代等支出）

【活動を行う上での工夫】

- 佐々並寿クラブだけに限定するのではなく、佐々並地区全体の困りごとに対応しようとする姿勢と関係機関との連携をとることを主に心がけている。
- 特には、住民の困りごとや、声がたくさん集まる地区社会福祉協議会との連携を密にすること。
- 実際におてごをする人の話を事務局がよく聞くこと。反省点や改善点があれば、定期的に話し合いの場を持ち、取り決めを行うこと。
- 現地確認をした上で、おてごの提供困難と判断した場合は、お断りする。無理なことは行わないこと。

【活動を振り返っての成果】

- (1)佐々並地区の生活の中で困っているけど、解決できそうにないこと（既存のサービスでは対応できないこと）をまず、把握できたこと
- (2)把握できたことに、手をかしてやるぞ！という声が出てきたこと
- (3)手をかしてやるぞ！という人が何人もいてくれたこと
さらに人数を増やすために、既存の組織である佐々並寿クラブが最大の力となったこと
- (4)住民参加型在宅福祉サービスの一つとして、「おたすけクラブ」を無理なく結成できたこと。困っている人も手助けする人も双方のメリットがあること
- (5)困ったことは、相談し、みんなで考え、話し合いで解決していくという体制があること

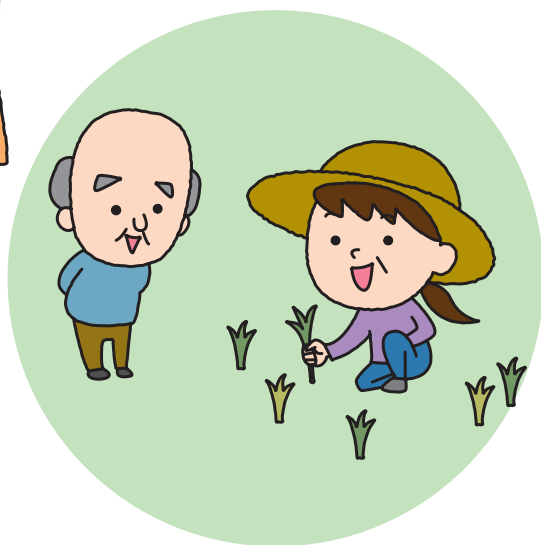
これら、一連の流れは、「一人の困りごとをなんとかしよう！」という想いがあったから進んでこれたのではないかと思う。

【活動での課題や反省】

- 草刈りでとても広い田んぼを炎天下の中刈った。倒れるかと思った。
- 作業をしているうちに、「こっちもお願い、こっちも……」とどんどん注文が増えて、なかなか帰れなかったこと。
- 事前の現地確認が不十分だったこと（後から聞いたら隣の家の人の家の草刈りをしていた）
- 不燃物のごみ出しへ行ったが、回収してくれたか不安になり、再度回収されたか確認へ行ったこと。

【今後の活動の展望】

- 佐々並地区には11集落あり、将来的には、その集落の中に、佐々並寿クラブの手助けできる人が1人ずついて、困ったことは近所で助け合える仕組みができれば、と思っている。
- 介護予防・日常生活支援総合事業をを萩市から受託して、佐々並寿クラブが主力となり、次第に上記の形に近づいてるが、将来的にそうなれば、昔からあった近隣の助け合いが戻ってくるのではないかなと思う。
- おたすけクラブをしている中で、「こんなことは、昔から近所でお互いがやってきたことじゃないか」という声があった。昔は、大仰に頼まなくてもちょっと近所の人が助けてくれた。だから、顔の見える範囲での助け合いが戻ってきたら良いな、という願いを込めて活動を行っている。……といっても人口は減少し、高齢化は進むばかりである。少しでも佐々並の地で、安心して生活ができるようになれば良いな、と思います。
- 老人クラブだけの組織の中で、どんなに頑張っても限界がある。地域の中にある様々な組織と協力することが大切だと感じている。



Case 2

通いの場づくり

高齢者が通い、集える場があることは、健康づくり・仲間づくり、そして健康寿命の延伸につながる活動です。

Case2では「通いの場づくり」に取り組んでいるクラブを紹介します。

●Case2 通いの場づくり

**宇部市老人クラブ連合会
北迫新町やすらぎ会**

**会員数
75人**

学びで育む「共助」の心！「論語講座」の開催

【活動の具体的な内容】

毎月1回、川上ふれあいセンター会議室にて、川上校区連合会会員限定の教養講座として実施。

論語の素読により「心豊かな生き方」、「思いやりの心」、「自分を省みる」など孔子の教えを学び、友愛の心を育む。

受講者数は、現在18人（川上校区内の3単位クラブの内、2単位クラブ会員が入会）で、講師は高校の非常勤講師の方に依頼。世話役は、北迫新町やすらぎ会役員が行っている。



会長発案ではじめた論語講座、会員増強にもつながっています

【活動をはじめた経緯】

- 岡山県の特別史跡閑谷学校しずたにの論語講座を連合会会長が習い、論語を学ぶことで高齢者の心のリフレッシュを行いながら、高齢者同士の「共助」の心を学ぶことが期待できる、と考えた。
- 今、高齢者の論語などへの勉強熱が高いことが伺えるので、この論語講座を機に老人クラブ入会の誘いを行っている。
- 当校区の今後を担っていこうとする人材がでてくるものと期待している。

【活動の財源】

- 会員受講費 500円／回
- 山口県老人クラブ連合会「平成29年度シニア活躍 地域支援担い手育成事業」助成金

【活動を行う上での工夫】

- 論語素読を健康のためにも推奨し、腹式呼吸の訓練をはじめめる。
- 教室懇談会を行い、受講者と講師の先生との信頼関係の強化

【活動を振り返っての成果】

- 講師の論語解説時に、その当時の中国の歴史背景や興味深い話をお話いただいている。先生の熱意・力量に感服
- 北迫新町やすらぎ会へ「論語を学びたい」と新入会員5人の増
- 論語の心が徐々に会員に入り込んでいる

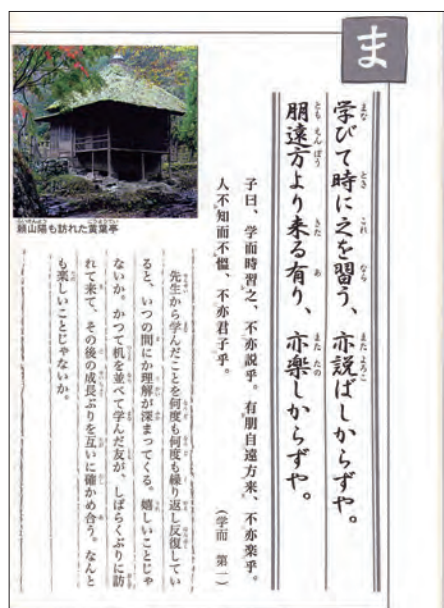
【今後の活動の展望】

老人クラブ活動の全てに言えることですが、いかに担い手を増やし、現在行っている活動や新たに取入れた活動を継続していくかということ。これが一番の課題であると言えます。

私たちが取り組んできた活動も、いずれ新しい人たちが後継者として活動が継続されていくでしょう。

しかし、その人たちの全てが情熱や使命感を持って、先頭に立って活動しているかという点必ずしもそうではないのが、現実ではないでしょうか？

そういった現実も踏まえて、老人クラブ活動を今後どう運営していくか、という方策を考えておくことが重要な課題と考えます。



(関谷学校「あいうえお 論語」より)

論語

週に3回オープン！ アットホームな雰囲気が魅力の「新町サロン」の開催

【活動の具体的内容】

- 活動開始年月日……平成25年5月
- 場所……………宇部市北迫新町
自治会館広場／プレハブハウス
- 参加費……………無料
- 参加者数……………10人から15人
- 活動日……………月・水・土
- 活動時間……………午前9時から10時までグラウンドゴルフの練習を行い、午前10時から11時半までサロン活動を行う。

現在は、井戸端会議のようなおしゃべりによる情報交換がメインのサロン活動である。

一方で、市内・町内の情報や、北迫新町やすらぎ会会員の動向など、有用な情報源となっている側面がある。



なじみのメンバーで会話が花が咲きます

【活動をはじめた経緯】

グラウンドゴルフ練習時の休憩場所が欲しいと要望があり、自治会館広場に平成25年5月に10㎡プレハブハウスを設置した。ハウスをお茶飲みや打合せ場として利用していたが、次第に活動へと発展し、現在のサロン活動の形となった。

高齢者同士が仲良く集い、おしゃべりし、町内の人たちの安否を気遣ったり、よろこんだりすることで、日常を過ごすこと。これが一番の健康寿命の延命策との想いで活動している。

【活動の財源】

北迫新町やすらぎ会予算

山口県老人クラブ連合会「平成29年度シニア活躍 地域支援担い手育成事業」助成金

【活動を行う上での工夫】

- 余暇に脳トレ遊びができるよう、9マス将棋や簡易囲碁盤を購入し、仲間を集めること。
- 週に3回サロンを継続できる秘訣は、世話役の女性役員の存在が大きいですが、負担を少なくする気配りをし、運営の工夫が必要と考えているところである。

【活動を振り返っての成果】

- サロンの特徴として、はじめにグラウンドゴルフを行うので、男性の参加が多い。また、最近ではグラウンドゴルフに参加しない人もサロンに参加しており、「人々が楽しみ、集まり、交流する場所」というサロンの役割を十分果たしていると感じる。
- サロンでは、町内の良いところや問題点、福祉・病院情報、行事情報など、様々な情報交換を行うことが出来ている。

【活動での課題や反省】

- サロン参加者の固定化・新規参加者の獲得
- これまではやすらぎ会会員限定のサロンであったが、今後は、会員・非会員に関わらず「ちょっと寄っていきませんか」「コーヒーを飲んでいきませんか」等の声かけをして門戸を広くしていこうと考えている。

【今後の活動の展望】

- お花やパッチワークなどの習い事、囲碁将棋などの導入など、他所で行われているサロン活動のできるものの導入を図る。(プログラムの充実)
- 世話人の負担軽減を行う工夫や仕組みづくり。



新町サロン



●Case2 通いの場づくり

宇部市老人クラブ連合会 西部第一寿会

会員数
26人

民踊で介護予防！「伝統・復活」健康民踊教室の開催

【活動の具体的な内容】

船木校区の伝統芸能である『船木小唄（民踊）』を末永く地域に残していくため、西部第一寿会が中心となり、平成28年6月に『伝統・復活』健康民踊教室を立ち上げた。

現在、50代から80代の15人がメンバーで、毎週火曜日に船木ふれあいセンターに集まり、稽古を行っている。

また、船木校区内の特別養護老人ホーム、施設や楠ガーデン、地域包括支援センター、敬老会、福祉まつり、演芸大会での民踊披露など、様々な地域行事に出向き、少しでも多くの方に『船木小唄』が伝わるよう努力している。



色んなイベント・行事に出向いて船木小唄をPRしています

☆船木小唄プロローグ☆

昭和の初期、当時山口県厚狭郡楠町船木の町長だった中原治三郎氏が、船木に住む芸者さん達に歌ったもので、祇園小唄の節で芸者さん達の間で広く歌いつがれていた。

その当時の一人、長峰ヒサノさんのふとところでねむっていたこの歌が、60年たった今日、“ドンキー”こと今井治男氏によって新しい感覚の歌に変身し、船木宮本在住の松岡繁美によって歌われる事となったのである。

【活動をはじめた経緯】

- 船木には『船木盆唄』と『船木小唄』があり、盆唄の方は、盆踊りでずっと踊り続けられ、全国民踊で全国版にまでなっているが、小唄の方は、埋もれてしまっており、何とか盆唄のように全国版にしたいという思いから、健康民踊教室を立ち上げた。
- 船木にはこんな素晴らしい民踊がある。地域の歴史・伝統がある、ということを知ってもらいたい。今は進学や就職で地元を離れると帰ってこない子どもたちが多く、小さい頃に地域の伝統芸能に触れてもらうことで、地域への愛着を持ってほしい。

- これから老老介護の時代において、脳を使い、おしゃべりをし、身体を動かすことが高齢者の元気の源となる。
- せっかく立ち上げたからには、歴史ある『船木小唄』も「全国版 民踊」にしたい、これで船木を盛り上げ、活性化していく決意である。

【活動の財源】

参加者の会費 1,000円／月

船木校区コミュニティ推進協議会の助成金 30,000円／年

【活動を行う上での工夫】

- 健康民踊教室の副会長に男性2人、女性1人を置いている。女性が多いグループだからこそ、男性に雰囲気を引き締めてもらうことが必要。女性が女性に意見を言っても伝わりにくい所があるが、男性が言うと発言力がある。
- 参加者同士で本音で話し合いのできることが、楽しい「場づくり」を行う上で大切だと感じている。健康民踊教室では、「教室であった良い所・悪い所は教室の外に持ち出さない」、「仲間の陰口を言わない」、この2点を「原則」としています。

【活動を振り返っての成果】

- 会員の皆さんが「週に1度の稽古日が楽しみで待ち遠しい」、「その日は嬉しくて仕方がない」と言ってくれる。皆さん生き生きとして集まってこられる。こうした姿は、会の責任者として大変ありがたく感謝します。
- 練習の合間の休憩にも、全員和気あいあいと話に花が咲き、帰りには「来週も貴女が来るのを待っているよ」と声をかけ合って別れる、大変素晴らしい雰囲気であると感じています。
- 参加者の81歳の方は、初めの頃は踊ることがいやで、やめたいと言われていましたが、今は皆に会えるのが楽しみになり、練習場所の船木ふれあいセンターまで歩いて10分ほどかけて参加されている。ご本人も「週1回のこの通いの場がなかったら、家に引きこもり、認知症になってるよね。」とおっしゃっている。1人でずっと家にいるより、誰かと逢い、おしゃべりをし、身体を動かすことがやはり生きがいを感じると喜ばれています。
- 何よりの成果は老人クラブ入会会員8人の増が出来たことです。

【今後の活動の展望】

- 昨年、小学校の大運動会で船木小唄を披露する予定にしていたが、雨天のため中止になってしまった。今後、改めて小学校にお願いに行き、今年9月の大運動会では親子三代で小唄を踊りたい。
- 子供会のご両親にも、シニア若手会員として入会していただける様、楽しく活動できる会をめざします。
- 民踊健康教室の会員親子三代で30人の増員と単位クラブ会員増員（現在は26人ですが、必ず50人）を目標に、一致団結して増員活動に取り組んでいく決意です。

●Case2 通いの場づくり

宇部市老人クラブ連合会 小羽山第二親寿会

会員数
76人

週に2回実施！ 誰もが気軽に集えるサロン「どんぐり山」の開催

【活動の具体的内容】

週2回、小羽山4区集会所にて地域住民の介護予防・健康づくりを目的に「どんぐり山の会（ご近所サロン）」を開催している。

サロンの運営や企画は、6人のスタッフが行っており、内4人が小羽山第二親寿会の会員、2人が会員以外となっている。

脳トレ、健康体操、ヨガ及びストレッチなど、様々なプログラムを実施しており、内容にもよるが、1回の参加者はおよそ20人。親寿会の会員に限らず、誰でも参加可能としている。



人気のゲームで盛り上がります



健康体操の様子

【活動をはじめた経緯】

- 小羽山校区の高齢化率は10年間で14.4%の上昇、宇部市の7.8%と比べて約2倍という急速な伸び率で、今後さらに高齢者が増加することが予想されている。また、生活習慣病のうち、高血圧の有病率が高い地域であることが分かっている。こうしたことから、地域での高齢者対象事業の充実や啓発運動が求められており、今から6年前に宇部市がすすめる「ご近所福祉」でサロン活動をスタートした。
- 小羽山校区は各区に集会所（住民の集まるところ）がはじめからできており、校区では現在7か所でサロン活動を実施している。

【活動の財源】

参加者の会費（プログラムによる）	200円／回
宇部市社会福祉協議会の助成金	8,000円／月

【活動を行う上での工夫】

週2回開催と頻度が多いが、その分プログラムを考えるのは苦労している。卓球がしたいと言われれば、卓球台を用意する、カラオケがしたいと言われれば、カラオケセットを購入するなど、参加者の要望にできる限り応えるようにしてきた。その都度、参加者の声を聞き、内容を試行錯誤していくことが大切。今は、「健康」のテーマが人気なので、そこに絞って実施している。

【活動を振り返っての成果】

参加者同士の顔なじみの関係性。また、様々なプログラムを導入することで、いつも来るわけではないがこのプログラムには参加する、という人もいる。そういう幅がひろいサロンであると思う。

【活動での課題や反省】

後継者がいない。10年近く同じ人が運営・企画を担当していると、次が育たないという悩みがある。ボランティア（無償）でやる、ということには限界があるのではないだろうか。サロンのお世話役に役員報酬を払うことも検討しているが、厳しい状況。

【今後の活動の展望】

- 今は老人クラブ単独の行事は減ってきている。地域に多くある団体の1つとして、やっていかざるを得ない、老人クラブだけで独自性を出すことは難しい時代であると思う。だからこそ、サロンに限った話ではないが、他の団体と一緒に協力して実施することが大切。
- そうめん流し等の季節のイベントごとは、子ども会、自治会、老人クラブ等と一緒にやっているが、人数が集まる割には集会所が狭く、大きなイベントを実施するのは難しい。今後は、例えば、小物づくりなどの趣味の会（小さい会）をたくさん作っていくことも検討している。

Case 3

地域奉仕(ボランティア)活動

老人クラブでは、従来から地域社会に対する感謝と担い手としての活力を示そうと、地域の緑化、美化、資源ごみのリサイクル等の活動を中心に、地域団体や住民と協力しながら、ボランティア活動として取り組んできました。

Case3では「地域奉仕(ボランティア)活動」に取り組んでいるクラブを紹介します。

●Case3 地域奉仕(ボランティア)活動

宇部市老人クラブ連合会 小羽山第二親寿会

会員数
76人

住み良いまちへの環境改善！「環境整備活動」の実施

【活動の具体的内容】

小羽山校区連合親寿会は、第一親寿会、第二親寿会、第三親寿会、第四親寿会の4つの単位クラブで構成されており、校区連合親寿会の取組として、毎月1回、小羽山ふれあいセンター周辺及び各単位クラブ周辺の清掃活動を実施している。

また、校区内を流れる蛇瀬川土手に雑草や木が生えっぱなしになっていることを受けて、自治会連合会、コミュニティ推進協議会、校区社会福祉協議会、環境衛生連合会小羽山支部などとの連携のもと、小羽山校区連合親寿会が中心となって、土手の雑草や石ころの除去、花の植え付けなどを行い景観整備につとめている。

その他、宇部市が実施する市道の里親制度「美化(ピカ)ピカロード」の契約や「宇部市公園ボランティア」の認定など、行政が実施する環境整備事業にも積極的に取り組んでいる。

大半の取組がボランティア(無償)であるが、宇部市が管理する公園のトイレ清掃を行い、報償を老人クラブの活動費に充てているものもある。



清掃活動を行っている様子

【活動をはじめた経緯】

昭和56年行政区が発足すると同時に老人クラブが結成され、ボランティア活動の一環として、環境整備に積極的に取り組んできた経緯があり、昔からある活動を現在まで引き継いでいる。

【活動の財源】

基本的には連合親寿会及び各单位クラブの負担である。(燃料費、消耗品費等)

【活動を行う上での工夫】

- 小羽山連合親寿会の組織に広報部を設けており、毎月広報誌を作成している。B3のカラーサイズで大きく見やすいように工夫している。また、記事は宇部市老連の活動、連合親寿会の活動、単位クラブの活動を分かりやすく分類している。
- 自治会連合会に依頼し、全校区に班回覧できるようにしている。親寿会会員外の方も見られるため、広報誌には、会員募集の広告スペースを毎回設けている。

【活動を振り返っての成果】

- 他団体と一体的に活動することが多いので、校区内の各種団体との関係性が非常に良好。
- 過去には老人クラブ小羽山第二親寿会会員を中心に、宇部市主催の「花壇コンクール」に応募し、優秀賞の常連地域となったこともある。
- 建設省（現在 国土交通省）が主催する「第9回全国みどりの会建設大臣表彰」を受賞したことは、環境美化活動の誇りである。
- 住み良いまちへの環境改善、きれいでごみのないまちづくりは、人とのつながりが広がり、防犯対策効果も期待でき、安心してくらせる地域づくりにつながる。

【活動での課題や反省】

後継者づくりに苦慮されているクラブもあるが、大きな課題はない。

【今後の活動の展望】

- 小羽山校区の「地域づくり～一人ひとりの絆を大切にした『安心・安全なまちづくり』～」の推進。

地域づくりの目標

- (1)健康づくり・保健福祉の推進 (2)安心・安全の推進
- (3)子どもの健全育成の推進 (4)地域資源活用の推進
- 小羽山校区連合親寿会も各種団体の一つであり、他団体と連携しつつ、これまで以上に中心的な存在としての影響力を強めていく必要がある。
- 会員増強につなげる機会はまだまだたくさんあるという認識で地域づくりの推進に協力していきたい。

●Case3 地域奉仕（ボランティア）活動

周南市老人クラブ連合会 湯野寿会

会員数
96人

観光の街「湯野」を美しく！ 老人クラブで取り組む環境美化活動

【活動の具体的内容】

湯野寿会の専門部会の1つである生産部会の主導で『草花—育苗事業』及び『環境緑化事業』を実施している。

『草花—育苗事業』（周南市の委託事業）では、湯の寿会の会員と湯野整備の会のメンバーで、花壇用の花苗を年間8,000本程育てており、育てた花苗は地域花壇や学校花壇へ無料配布を行っている。

『環境緑化事業』では、地域の公共広場、県道の沿線、河川の周辺等の定期的な清掃活動を実施するとともに、平成29年度からカンナ・アジサイを湯野地域の主幹作物とし、植栽を積極的に行っている。

活動は、湯野寿会が中心となり、自治会やコミュニティ協議会（地区社会福祉協議会、民生児童委員協議会、福祉員協議会など32団体で構成）等と協力し、地域をあげての取組を心がけている。

特にコミュニティスクール指定校の湯野小学校とのつながりが強く、湯野寿会の呼びかけにより、学校の課外事業として、カンナ・アジサイの植栽に子どもたちも参加した。



観光道にカンナを植栽する様子



【活動をはじめた経緯】

- 草花の育苗は、30年ほど前より地域の子ども会や婦人会が市の依頼を受けて行ってきたものであり、今は老人クラブが受け継ぎ実施している。
- 今後は、いかに事業を継続していくかが求められており、各団体との話し合いを重ねて、管理運営委員会を設置しようと考えている。
- 湯野寿会に加入していない人も、こうした環境美化活動には来られる方もいる。家にひきこもるのではなく、出られるときに活動に出てくることが大切である。

【活動の財源】

周南市からの委託料収入
湯野寿会の会費（1,000円／年）

【活動を行う上での工夫】

- 年度はじめの総会、役員会でしっかりとした年間活動計画を立てること。計画した事業の実施前には、再度役員会を開いて、考え方の統一や事業に対応するための話し合いを行っている。
- 活動の広報は、コミュニティ協議会が発行しているコミュニティだより（月1回）に掲載し、自治会の広報紙や市の広報紙と一緒に回覧している。

【活動を振り返っての成果】

- 他団体に老人クラブの活動を改めて認識していただいたことが成果である。地域の様々な活動は、湯野寿会が主な担い手となり行っているが、老人クラブ活動が地域の方々に理解してもらえるようになってきたことで、『一緒に活動しましょう』、『手伝いますよ』と老人クラブ活動を応援してくれる環境ができてきた。
- 地域全体の心を結ぶ活動を行うことが湯野寿会の願いであるが、従来から様々な活動を行ってきた中で、その種をまくことができていっているように思う。この種を湯野寿会や他団体とともに育てていき、地域一丸となって湯野を盛り上げていきたい。

【活動での課題や反省】

湯野寿会会員の高齢化が顕在となり、また湯野地域でも人口減少がすすんでいる。

【今後の活動の展望】

- 青年部（65歳～）の立ち上げを検討している。会員の高齢化、湯野地域の人口減少も相俟って、連続性のある地域づくりを早急に行っていく必要がある。
- かつては、仕事を退職した方（65歳の方）を対象に、湯野公民館で『老人クラブ入会式』を行っていた。しかし、情報保護により、湯野支所から65歳になった方の名簿をもらえなくなり、式は廃止してしまったが、この入会式を復活させたいと思っている。
- 湯野寿会の専門部会の1つである女性部を中心に独居高齢者に対する生活支援サービス（電球の取替え、庭の草取り、買い物の付き添い等）の取組も検討しているところである。

